

獅子頭と天王様

獅子頭の由来

平成 20 年 11 月 5 日

万作保存会相談役 荻野英雄様 提供

今から大よそ 145 年前ほど前、西暦 1862 年（文久 2 年）頃の事とされています。

当時の鯨井村（現鯨井地区）に疫病（伝染病）が蔓延し、村人を困らせていたために神の御札を村内の辻々に貼り疫病の撲滅を図りました。が村人の必死の願いもむなしく疫病の蔓延を阻止することが出来ませんでした。困り果てた人々はより強い防止策はないものかと塾慮の末、神の御神体を作り、おすがりすることになりました。

当時、村の農業水として営農を支える小畦川が村の北側を取り巻く様に流れていました。小畦川の岸边には、松の大木があり、村人は其の松の木の根で獅子頭を作り御神体とする事にし、彫刻家「小林斎熊山越前之助藤原正信」に獅子頭の創作を依頼した。正信は快く引き受け、村人が願いをこめて切り出した松の根で、元治元年（1864 年）に彫刻を開始し、半年近くの時を費やし同年完成しました。村人は早速、村杜「八坂神社」の神殿に獅子頭を納め、神社の御神体としました。

以後、今日まで鯨井地区の無病息災と繁栄を見守って来た、由緒ある獅子頭です。

尚、彫刻家「小林斎熊山越前之助藤原正信」との出会い等は現在のところ定かではありません。又、この作業に携わった場所は村の旧家「真仁田家（現当主真仁田淳氏）」と伝わっています。「小林斎熊山越前之助藤原正信」という姓名については、創作の期間中に「いろいろお世話になりました」と言うお礼の気持ちで大黒像を彫り、真仁田家に残したと言われ、その像の裏側に彫刻された名前です。又、獅子頭も出来上がった当初は 60Kg 程あったそうですが、現在は約 47Kg です

天王様(夏祭り)の由来

御神体も出来上がり、蔓延する厄病を一刻も早く払いたい村人達は、同年 7 月の吉日(元治元年 7 月)獅子頭を担ぎ、村の家々を廻り無病息災を祈願しました。鯨井の夏祭り(天王様)はこうして歴史の幕を開け昭和 30 年代まで続けられましたが後継者の不足等諸般の理由により、一時期祭りの中断を余儀なくされました。祭りが中断すると、又、伝染病が地区内にはび延り始め厄病払いに天王様の復活を強く望む声上がり、昭和 49 年(1974 年)鯨井の万作を保存しようと、万作手踊り保存会が設立されるのと時を同じく天王様も復活を遂げ、以来有志一同による「鯨井の万作」の保存伝承とあわせ天王様も又、地元の人達の誠意により今日まで休むことなく続けられ、将に地域が一体となった鯨井地区最大の行事であり、地区内のコミュニケーションの場として又、郷土の活性化につながる、地域になくてはならない重要且つ貴重な存在となっています。

天王様

[五穀豊穰・無病息災]を祈願し、毎年 7 月 15 日に近い日曜日に行われます。元は 7 月 15 日に執り行われていたが、「地域の祭りは地域住民一体となって」の精神に基づき又、子供達をそして一人でも多い参加者をと言うことで現在は表記の日時に行います。漆塗りの朱色も鮮やかな獅子頭、**九色九反の水引**(約 10 m)を麻縄で繋ぎ、獅子頭は大人六人が其二人は獅子頭を肩に乗せ、二人は獅子頭を支え、鼻綱を持つ二人に引かれる様に、又、獅子頭の後ろに伸びる九色の水引には大人、子供が入り混じり掛け声も勇ましく時には走り、時には歩み、先導する大太鼓の音に引かれるように地域内を練り歩きます。昔は鯨井地区の戸数も 150 戸程で其の当時は全戸を廻り、獅子頭・水引一体が縁側から家の中に入りトボグチから出て行く、といった習わしでした。近年は戸数も増え、家の造りも変わったため各家庭に入ることは時間的にも、構造的にも出来なくなり現在の様に地区内の道々を練り歩くといった形になっています。獅子頭の巡行に伴い、獅子行列の行く道筋、或いは自宅の庭先等に獅子の到達を待ちわびる年配の方たちが数多く見受けられます。これは昔から「獅子頭に頭を噛んでもらうと其の年を無病息災で過ごすことが出来る」と言い伝えられているので、獅子のご利益に有りたいと願う人々です。最近では赤ん坊から年配の方まで幅広い年齢層になってます。又、天王様が近づくに従って家々の周りを掃除し、整理し、獅子を迎える準備をします。

現在では無くなった光景ですが、獅子が家の中まで入る時代には座敷の畳をあげ、床を掃除し獅子を迎えました。これらの風習は、家の中でも普段行き届かない場所を整理し整頓するといった衛生面にも気を使う様になった為、獅子頭のご利益と相まって病魔撲滅が出来たと思われます。地域内半分程を廻り厄病を呑み込んだ獅子頭は、途中小畦川に入り呑み込んだ厄病を水に流し、洗い清めて更に厄払いの巡行を行います。

こうして地区内を回り終えた獅子頭はもう一度小畦川に厄病を洗い流し、社殿に戻り祭りの終焉となります。最後に御神体、祭りの無事を感謝し、社殿前で手締めをします。

文中赤字の部分

水引の九色九反　とは暦の九星色と同じとされ、地区の年配者により自治会館で毎年作りかえてます。近年は年配者だけでなく一般地区民も参加しているようです。

九星・・・・陰陽道で九曜星を五行の方位に配し、生年にあてはめ吉凶を占う

九星色・・・・一白～九紫

水引・・・・獅子の後ろに長く伸びる、布で作った獅子の胴です。祭りに使われた水引の布は、其の端切れを使ったものを妊婦に着せると安産になると言われてます。

トボグチ・・・・今で言う玄関のこと

縁側・・・・今では少なくなり近來の家の構造にはあまり見かけなくなりましたが、部屋の吐き出し口にあった木の床様の場所

最後に、伝統あるそして大きな意義のある鯨井の天王様を末永く伝承して行きましょう。

◎以上獅子頭及び天王様に関する情報は万作保存会相談役　荻野英雄様より提供